

7 本ガイドブックの監修者からのメッセージ

上智大学総合人間科学部教育学科

教授 酒井 朗

このガイドブックは、学校を休みがちだったり、なかなか学校へ足が向かないお子さんをお持ちの保護者の皆さまに、少しでもお役に立てればとの思いで、私は、監修に携わりました。

近年、練馬区でも、不登校の子どもたちが増えています。保護者の皆さまにとって、お子さんが学校へ行きづらくなっている様子を目の当たりにするのは、とても心配で、どのように受け止め、支えていけばよいのか、さまざまな思いやお悩みを抱えていらっしゃると思います。

私はこれまで、学校に適応しづらい子どもたちに関する研究に取り組んできました。たとえば、小学校から中学校への進学時に、新しい環境にうまく慣れず、先生や友達と良好な関係を築けない「中1ギャップ」の問題などもその1つです。そうした中で、不登校の問題にも関心をもち、研究を重ねてきました。

不登校の背景を追っていくと、子ども一人ひとりが抱えるつらさや、環境との不適応、生活リズムの乱れなど、さまざまな要因が見えてきます。そのため、不登校支援では、「学校に戻すこと」だけを目指とするのではなく、まずは子どもが安心できる居場所を確保し、本人のペースを尊重しながら、将来に向けた力を育んでいくことが大切だと考えています。

練馬区では、学校外で学習支援や相談支援などを行う教室「フリーマインド・トライ」の増設や、学校内で安心して過ごせる「校内別室」の整備、ICTを活用した支援など、多様な支援策が展開されています。こうした施策は、子どもたちの多様なニーズに応える柔軟な体制づくりとして、非常に意義深いものだと感じています。

本ガイドブックでは、実際に不登校を経験したお子さんの声を紹介しながら、ご家庭でお子さんを支える際に大切にしていきたい視点や、相談できる窓口、学校の中や外で受けられる支援の情報を、わかりやすくまとめています。

保護者の皆さまが、お子さんの状況に応じて「今、できること」を見つける手がかりとして、ぜひ活用していただければと思います。焦らず、迷ったときには立ち止まりながら、お子さんとともに歩いていくための一助となればと願っております。